

## 第4回京都府循環器病対策推進協議会における意見と対応(案)

資料 2

御意見の要旨	京都府の考え方・対応
1 データを取り扱うにあたり、日本脳卒中学会の年次調査データが悉皆性の高い情報であり、行政に提供可能である。	日本脳卒中学会に幾つかの指標となるデータを申請中であり、取得できれば計画内に反映する予定です。
2 健康寿命の延伸に向けて、地域別の健康課題を提供いただきたい。	健康長寿・データヘルス推進プロジェクト内で健診・医療・介護総合データベースを中心としたデータ分析を行い、府内地域毎の健康課題抽出を行い、府HPに掲載しています。
3 健康寿命の調査方法は主観的ではないか	健康寿命は国民生活基礎調査で「健康上の問題で日常生活に影響があるか」という質問に基づき算出されていますが、年齢・性別・傷病により高精度に健康寿命を予測し算出できることが論文で科学的に証明されています。したがって府・県民性によるレスポンスバイアスの影響は小さく、信頼性・再現性の高い指標と考えます。また欧米でも同様の調査方法により健康寿命を算出しています。府としては他の健康寿命の指標も併用し、総合的に判断してまいります。
4 「他の疾患等に係る対策との連携」に関連して悪性腫瘍合併循環器疾患はかなり広い領域になるが対応していきたい。	がん患者の循環器病について記載しました。2章(1)、4章(2)-③
5 小児期だけでなく、成人後も様々な問題を抱えており、その点にも着目して欲しい。	移行期医療支援センターの設置を検討しており、その旨記載しています。4章(2)-⑨
6 一定の年齢からは積極的にMRI等の検査を受診する仕組みがあるとよいのではないか。	一般健診や特定健診の項目については、保険者や国が選定するものであり、京都府としては動向を注視してまいります。